

それでも効率的が好き

「昔、お付き合いしていた人と買い物に行き、自分が本屋に相手は洋服屋に用事があったので『ここは別行動した方が効率的だね』と言ったら『効率的に生きるために交際しているわけではないでしょう』と言われ、そうだなあと思っ、両方一緒に行きました。」

SNSで面白い投稿を見つけたのでご紹介しました。私は効率的という言葉が大好きです。何をするにも効率的かどうかについて調べてから行動に移します。ところが人生を振り返れば、効率的に生きるために生きていくわけではないことは明白。いつでも頭の中と生きている現実がバラバラで生きているのです。

台東区西浅草 円照寺

副住職 花園 一実 先生



親鸞聖人報恩講ご法話

講題…後世をいのる心

二〇二〇年十一月七日(土)

報恩講は宗祖・親鸞聖人のご命日のご法要です。親鸞聖人の九〇年のご生涯から私たちが阿弥陀の本願を聞かせていただく大事な縁として、浄土真宗で最も大切に勤められ

報恩講は宗祖・親鸞聖人のご命日のご法要です。このたびは感染対策として、本堂の人数を制限し、YouTubeでの配信も併用いたしました。ここでは、当日のご法話のダイジェスト版を掲載いたします。

本日の講題にある「後世」という言葉は、

自分の死後の行先を後世と言います。別の言葉で言えば「後生」「来生」と言います。また、古くから「後世者」という言葉がございまして、これは自分が亡くなった後、阿弥陀仏の極楽浄土に往生することを願って、念仏したりお経を読んだりする人々を後世者と呼んでいました。世間の欲にとらわれず世を離れて真面目に浄土を願って生きる誉め言葉として使われていました。しかし、浄土真宗では伝統的にそのような真面目に浄土往生を願う後世者のあり方は親鸞聖人のお心とは正反

対であり、後世者のように振舞ってはいけませんと教えられるのです。

では親鸞聖人のおっしゃるようなお念仏の世界と後世者と言われる方々が祈るようなお念仏の違いとはいったい何なのでしょう。

◆比叡山を下りた親鸞聖人

親鸞聖人は九歳から二十九歳まで比叡山で大変厳しい修行をされました。しかし、二十九歳の時に修行の道に躓かれて、比叡山を下りて敬愛する聖徳太子ゆかりの六角堂に籠られました。そこで観音菩薩から夢の告げ

を受けられたのです。その夢の導きによって、法然上人にお会いしに行くのです。

当時は法然上人のことを知らない者はいないほど大変有名な方だったのです。どのような者でも「ただ念仏」だけで往生できる専修念仏という教えは、物凄い勢いで民衆のなかに広まっています。そうすると親鸞聖人はそのことを知らないはずがありません。でも、その法然上人の下に行ってしまうということは、比叡山の厳しい修行に明け暮れてきた親鸞自身の修行の日々を否定するということでもあるのです。これまで二十年やってきた血の滲むような修行が丸ごと否定され無意味になってしまおうというプライドがあるわけですね。だからなかなか法然上人を尋ねることができません。しかし、いよいよ自分がどうにもならないということがわかってきた、煩惱も消えないし、余命いくばくも無いので時間も無い。そこで夢のお告げという後押しを受けてようやく決意をすることができたということなのです。

◆「ただ念仏して」法然上人の教え

そこで法然上人はどういうお話をされていたのかと言うと、善人であっても悪人であってもどのような人に対しても全く同じように念仏の

道「生死出ずべきみち」をお説きになっておられました。「生死」というのは流転輪廻を繰り返す私たちの迷いの生のあり方です。そういう

「生死」を出るための道というものはただ念仏の教えしかないのだと、ひとすじに法然上人はそのことだけを伝えておられました。

それに対して比叡山時代の親鸞聖人は「後世をいのる心」ですと迷いながら生きてきたということなのです。どうすれば来世に救われるのか、このままでは地獄に堕ちてしまうのではなにか。そういう自分の将来の行先というものを真面目に考えて悩んでおられたのですね。そういう心の不安を埋めるかのように、厳しい修行をされていたわけです。それが法然上人の教えに出遇ってどのようになったか。もはや自分はどういう場所に行こうとも後悔はしないと、親鸞聖人の気持ちが根底から一八〇度まったく反対に変わっていったわけです。

これを「回心」というのです。この回心の体験を『教行信証』の中で「雑行を棄てて本願に帰す」このように言っています。このとき親鸞聖人は法然上人に帰したわけではなく、阿弥陀如来の本願に帰していかれたわけです。ここが非常に大事なところです。法然上人を通して親

鸞聖人は阿弥陀如来の本願に触れられていかれたわけです。

◆阿弥陀の本願―選ばず嫌わずの真実の愛

本願とは何かを簡単に説明すると「阿弥陀様から私に向けられている愛」です。選り好みする愛ではなく、真実の愛です。どのような罪を犯しても、あなたがどのような存在であっても、あなたに寄り添うのだという無条件にあなたを信じるそれが阿弥陀の愛です。その愛に触れることによって、親鸞聖人はお念仏への向き合い方というものが根底からひっくり返された、だから「回心」というのです。

これはたとえ話で言いますと、以前七歳と四歳の娘がコップの色を取り合ってけんかをしたことがありました。親としてはコップの色が何であろうとそれは表面的な問題でしかないわけで、ただお茶を飲んでほしいわけです。しかし本人たちにとっては泣いてけんかするほど重要な問題なのです。でもそういう子どもたちの上に親の願いとして、ただお茶を飲んでもらいたい。それに気づいてもらえれば、どんなコップの色であろうが、子どもたちは与えられたものをそのままいただいていくことができるのではないのでしょうか。

阿弥陀の愛というのはこれに非常に近いように感じます。私たちの日常はさまざまな問題が起こりますが、仏様の目から言いますと、ほとんどがコップの色の様な問題なのです。どちらの方が自分に都合が善いかという問題ではないのです。自分に都合の善いものを善と言ひ、都合の悪いものを悪と言ひ争っていません。人間が人間として生きるということについて本当に大事な問題はそういうことではないのだということですね。阿弥陀は善し悪しの問題を超えて私たちに愛というものを与えてくださって自分を根底から支えてくれている、その愛に気がついたことを「回心」というわけです。親鸞聖人はずっと自分の行先が真っ暗闇でこれからどうなるのだろうかというかたちで不安で一杯だったわけです。皆さんもそういうところが不安だと思ふのです。しかし、法然上人を通して大地のように自分を支えているような阿弥陀の愛を知ったのです。その愛に触れた瞬間に親鸞聖人の心にどのような心境が生まれたのかと申しますと、将来に不安を感じて「後世を祈る心」であった者が、どのような人生であったも後悔しない「生死出づべきみち」という道の与えられた者に転回していくわけですね。

◆道—いかに生きるか

道というのは方向性ですよ。生きる方向性、生き方と言ってもいいのではないかなと思います。どのようなコップの色であっても、どのような人生であっても、この愛に支えられている自分のいのちを確かに引き受けて生きていくそういう心です。その心をいただいたときに親鸞聖人の中で、これまで必死に往生していくことを願ってきた浄土、それが必ず帰っていく場所として、浄土の意味がまったく逆の意味にひっくり返っていったのです。つまり死んだ後の向こう側にあるような世界ではなかったということだったのです。いつでも自分を迎え入れてくれている世界として、生きる方向性、道というものを示してくれる世界（浄土）があったということに気づかされていくわけです。

◆「恋」と「愛」の違いはわかりますか

阿弥陀の愛ということを先ほどから申しておりますが、恋と愛の違いは何だと思ひますか？ 言い換えると、恋はなぜ苦しいのでしょうか。それは「自分」というものが中心にあるから苦しむのです。 「どうすればこの人と自分は結ばれるのか」というかたちで自分を中心にするか

ら非常に苦しむわけですね。ここに新聞に載っていた、ある一人の母親の投書があります。

●努力は実を結ばないのね

虫歯で苦勞しないよう仕上げ磨きを欠かさなかったのに、今じゃ歯磨きしない男に。毎晩本を読み聞かせていたのに、今じゃケータイ以外の活字は読まない男に。保育園や学校の給食表を冷蔵庫に張り、献立が重ならないよう手作りしていたのに、今じゃカップ麺大好き男に。環境のため親子でエコ活動していたのに、今じゃ一面ごみの部屋で暮らす男に。

少子化バンザイ。こんな理不尽な母親になれなんて、未来ある人に絶対言えない。徒勞感いっぱい、私は卒親する気満々だ。ただ、あふれる愛で、大切な存在を守ることが必死だった日々。幻でも一時それがあったことに感謝している。卒親にあたって息子らにひと言。「努力が全く実を結ばない世界があるってこと、教えてくれてありがとう」

(西東京市、疲れた母、55歳)

読んでいるといたたまれなくなってきましたね。この方は大変な苦勞をされたのだと思ひます。でもここで言われていることは、はたして愛と言えるのかということ。 「こんなに愛してあげたのにどうして何も返してくれない



の?」もしそう思うなら、それは愛という名の
下に何か別のものを想像しているだけですね。

一方で、たとえ自分がどうなっても相手が幸
せになってくれるのなら、そこに自分がいなく
てもそれでいい、このように言えたらそれはも
う愛だと思えます。愛には「私」がない、これ
が恋と愛の違いではないかなと思えます。これ
は子どもへの愛情など、どのような愛にも言え
ますね。この違いを私たちはよくよく考えてい
かなければいけませんね。

もう一つ星野富弘さんという詩人の詩を紹介
したいと思えます。(左記イラスト内の詩)

この方は元々学校の体育教師をしていた方でし
た。しかし鉄棒の模範演技のときに事故を起こ
して脊髄を損傷してしまい、首から下は全く動
かなくなってしまうのです。体育教師ですか
ら体を動かすことが自分を支えるような誇りで
もあつたはずだと思えます。しかしそういうも
のが一瞬で粉々に打ち砕かれてしまったわけ
です。そういう絶望に瀕しているなかで聖書の言
葉に出会います。

労する者 重荷を負う者 我に來たれ

動けなくなったあなたも、そのことを嘆くこと
しかできないあなたもそのまま受け止めようと
いう神の愛ですね。私を超えた本当の愛に触れ
て道を与えられたということだと思ふのです。

◆人間の究極の自己関心

結局、「後世をいのる心」の正体は何でしょ
うか。それは「人間の究極の自己関心」ではな
いかなと思えます。現代では後世と言われるよ
うな亡くなった後の世界という発想がそもそも
生まれにくいのではないかなと思えます。人間
は死んだら終わりで死後の世界などないと思
う人が考えていると思えます。でもそういう死
後の世界などないという考えも、一つの「後世

をいのる心」です。「死後の世界はどこにもな
い」そうあるべきだと考えて、「そうやって自
分は死んでいくのだ」というかたちで後世を
祈っているのです。それも一つの自己関心の表
れではないかと思えます。

そして、老後のことや病気のことなど私たち
は将来について思い悩むわけです。そういう自
分の将来を善いものにしたいたいというものも欲
望、つまりは「後世をいのる心」の延長にある
心なのです。「自分はこの先どうなるのだろう
か。こうなるといいな」というかたちですね。
そういうものは自分の自己関心というものに端
を発しているわけなのです。その自己関心の究
極が実は「後世をいのる心」になるわけな
のです。だからどれほどお金があつても、どれほど
安定していても、いつの時代のどのような人も
最後にたどり着くのは後世の問題なのです。

そういう後世という問題、自分はこの先どう
生きるのか、どこへ行くのか、そういう問題は
年を重ねるごとに私たちに切実な問題として
迫ってきています。もしそのことがはっきりし
ない限り、私たちの人生は非常に苦しくなって
何か違うことで紛らわせないと言っていられな
くなるのです。

◆後世者というあり方と親鸞聖人のお念仏

最初に後世者^{ごせしや}という真面目に浄土往生を願う人々のあり方と親鸞聖人のお念仏の世界の違いとは何かということ問いとして申し上げました。それは後世者というあり方には「道」がないのです。今生を捨てて来世を願うのが後世者のあり方です。かりそめの現世を捨てて、後世こそ大事なのだというのが後世者の考え方です。そういう後世者にとって浄土はただの目的地なのですね。理想の世界ではないわけであります。ですから浄土が今を生きる自分の力になっていかないのですね。ここが大きな違いなのだと思えます。

しかし親鸞聖人のように阿弥陀の愛に触れると必ず帰る世界としての浄土として、いつでも・どんな時でも私を迎えていてくれる世界があるということ。そういう世界に触れたときに私たちには必ず「生死^{しようじ}出^いずべきみち」という道が開かれていくわけ。これが浄土真宗の大きな利益^{りやく}です。大事なのは浄土というかたちで道が与えられるということ。いま・ここで・この私を生きていく道が与えられるということが浄土の一番大事なことだと思えます。

私は子どもたちをよく公園へ連れて行きます。少し離れたところで子どもたちが遊んでいる様子を見ていました。子どもは夢中になって遊ぶのですが、ときどき我に返ったように親を確認するのです。気づいて私が手を振ると子どももニコツと笑って手を振ります。そしてまた遊びに夢中になっていくということがよくありますね。これは待っていてくれる場所があるということなのです。待っている場所があるときに私たちは目の前を一生懸命に生きることができると、そういうことだと思えます。

◆ほんとうの自由になる

あなたが考えているいのち、自分のものだと、思っている苦しいのち、その命よりももっと深いところで自分という存在を支えている大切ないのちの世界があるということですね。そういういのちの世界に目覚めようということがとても大事ではないかなと思います。もし愛に触れてそのことに目覚めることができたなら、私たちは自己関心という暗闇から解放されていくことができるのですね。そういうものに出^で遇^あったとき、私たちには必ず星野さんのように道というものが与えられていく、今を生きる道というものが与えられていく。道が与えられる

ということとはどのような色のコップであつても、どのような人生であつても自分のいのちをまっとうして生きていくことができるのだということではないかと思えます。

今日は報恩講であります、七五〇年前に親鸞聖人という立派な人がいらっしやって、その人を大切にすることだけではありませんね。私たちが親鸞聖人を通して、親鸞聖人が出^で遇^あっていた阿弥陀の愛ですね。そういうものに私たちが出遇^あっていく、私たちがまた念仏の道というものを歩む、そこに本当の意味での親鸞聖人の願いに適った報恩講、本日のお話で言え「道」というものがあるのではないかなと思えうわけでありませぬ。(文責：真英寺)

YouTube 真英寺法話チャンネル

当日の花園先生のご法話をお聞きになりたい方は下記QRコードからスマホ等でご覧いただけます。



<https://youtu.be/CauS51NL9aQ>



真英寺 花園一実

検索

報恩講 法話

後世をいのる心

花園 一実 師
(台東区円照寺副住職)



お寺の掲示板

ほんとうにしたいことがあったら それをやれ

それで死んでも悔いはなからう

あけがらす 暁鳥 敏

今回の言葉は少しギョツとする言葉ですね。この言葉は初めて聞いてからずっと引つかかっている言葉です。皆さんにとって「ほんとうにしたいこと」は何でしょう？皆さんから「ほんとうにしたいこと」が聞こえてきそうです。でも、それで死んでしまっても悔いは残らないものでしょうか？私はこれまで「ほんとうにしたいこと」とらしきものを見つけたことはありません。でもそれは「本当にしたい」と思い込んだものだったり、人のマネしていたものだったり。「ほんとうにしたいこととは一体何だ？」と、この言葉の前でウロウロしています。それでも最近思うことは「それで死んでも悔いはない」という世界を生きている人に会うことでしかわからないと思います。皆さんにとってそれで死んでも悔いのないものはありますか？

2022年 年間行事予定表

(新型コロナウイルス感染拡大の状況により日時は変動する可能性があります)

- 1月2日(日) 14時 修正会 しゆしようえ
- 3月20日(日) 14時 春彼岸会法要 ひがんえ
- 7月3日(日) 14時 お盆のつどい
- 9月25日(日) 14時 秋彼岸会法要 ひがんえ
- 11月7日(月) 14時 報恩講 ほうおんこう

令和4年(2022年)年回表

1周忌	令和3年(2021)
3回忌	令和2年(2020)
7回忌	平成28年(2016)
13回忌	平成22年(2010)
17回忌	平成18年(2006)
23回忌	平成12年(2000)
27回忌	平成8年(1996)
33回忌	平成2年(1990)
37回忌	昭和61年(1986)
43回忌	昭和55年(1980)
47回忌	昭和51年(1976)
50回忌	昭和48年(1973)

裏門側万年塀のセツトバック工事のお知らせ

真英寺裏門前の通りが狭く、災害時の安全確保等の理由から新宿区よりセツトバックするよう要請がありました。そこで北側通りに面する塀を撤去し、アルミ製フェンスに建て替える工事を行うことになりました。工事は来年初めには完了している予定です。期間中は何かとご不便をお掛けするかと存じますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。



写真は撤去予定の現在の万年塀と門扉



新たに設置される予定のフェンスのイメージ

真英寺寺報「慈現」第四号

発行 真英寺(真宗大谷派 京都東本願寺)

東京都新宿区若葉二丁目一番三

TEL 03-3351-5955

E-mail m-miura@senei.jp

URL <https://www.senei.jp/>

